

潮音寺だより

第 258 号
平成 17 年 4 月
電話 052-671-4831
ファックス 052-671-4856

〈ホームページ〉 <http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/>

〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬 1 -10-11



【出典】法然上人
『三心料簡および御法語』

写真：葉山幸

仕事が出る

頭脳が切れる

人間は

グッド！

自分の

愚かさや

至らなさを
知る

人間は

グッド！

グッド！

マツケンサンバ

さる三月八日、東京ドームではあの『暴れん坊將軍』、時代劇俳優松平健による「コンサート」が開催され、一万人の観客とともに、「マツケンサンバ」を歌い踊って、大いに盛り上がったとのことだ。

この「マツケンサンバ」は、海外でも注目を集めているとのことだ。インターネットで拾ってみました。

.....

米ニューヨーク・タイムズは大阪発で「日本はサンバでナイト・フィーバー」との記事（二月十九日付）を掲載。米国人にとって「マツケンサンバ」とは「故ジョン・ウェイン（西部劇で有名だった超大物俳優）がカウボーイの格好でコミカルなパフォーマンスをやっ

ているようなもの」と紹介した。

松平のプロフィールやブームの現状を紹介したうえで「サラリーマンから子供たちまで幅広い支持を獲得。保守的なお年寄りは眉をひそめているが、90%の人々は好意的に受けとめている」と説明している。

一方、フランス通信（AFP）は「モダンな日本のトップ・サムライがサンバのリズムで腰を振る」（二月十八日付）と題し「勇敢で情み深いかつてのサムライは過去のものになった。いま、日本で最もイカしたサムライは、まばゆい金色の着物に身を包み、サンバのリズムに合わせて腰を振っている」と書き出しでスタート。

ブームについて「彼の最新CD『マツケンサンバⅡ』は既に五十

万枚を売り、金色の着物やちよんまげ付きのかつらといったマツケングッズの売れ行きも好調」と解説。（下略）

.....

さて、サンバというのは、ブラジルの陽気なダンス音楽（リオ・デ・ジャネイロのカーニバルが特に有名）ですが、それを侍の姿で踊るわけですから、欧米人ならずとも、日本人であるわれわれも、当初ビックリ仰天したものでした。しかし、これこそ、日本人の特質を如実に示した現象なのかもしれません。

「侘び」を重んじる茶道は、日本人の美意識に仏教的なものが加わり、きわめて日本的なものとされていますが、実は、キリスト教の影響から生まれたものであるとの

主張があります。千利休せんりきゅうによつて大成された茶道のお点前てんぜんは、カトリックの聖餐式せいさんしき（ミサ）における諸々の所作しよさくから取り入れられたといふのです。

たとえば、ひとつの茶碗で、その場にいる人が回し飲みをするといふ作法は、聖餐式せいさんしきの聖杯せいはいに注がれた赤葡萄酒あかぶどうしゆ（キリストの血）を、会衆で回し飲みをするといふ儀式に似ているといふことばです。その聖杯の縁に布を被せて、拭いたり、回したりと、茶道の所作しよさくと共通するものが多いといふことが指摘されています。茶室の躡しりぞの口も、「狭き門せまきかどより入れ」といふ聖書の言葉の具現化であり、利休が秀吉に切腹させられたのは、キリシタンであつたためだとする説を唱える学者もいます。

「意外」といえば意外ですが、「なるほど」と思わせる根拠があることも確かです。

また、わが仏教におきましても、元はといへば、外来の宗教でありました。法然上人の『登山状』の一節に、「わが朝に仏法の流布せし事も、欽明天皇きんめんあめのしたをしるしめして十二年、みずのえさるのとし冬十月一日、はじめて仏法わたり給たまひし。それよりさきには如来の教法も流布せざりしかば、菩提ぼだいの覚路かくろいまだきかず。ここにわれら、いかなる宿縁しゆくえんにこたえ、いかなる善業ぜんごふによりてか、仏法流布の時にうまれて生死解脱しじゆげつたつのみちをきく事をえたる…」とあります。

外来の宗教である仏教を受け入れるか否かについては、大陸の優れた文化であり、西方の国々が礼

拝している仏教を受け入れるべきであるとする蘇我氏すこに対して、物部氏ものべは、外国の神を受け入れれば、日本古来の「神（国つ神）」が怒るという理由から、仏教に反対し、徹底的に排除するべきと、激しく対立したといひます。そして、この抗争は半世紀にも及びましたが、仏教を深く信仰理解し、これを弘通こうつうさせることに努力した聖徳太子によつて、今日まで脈々と受け継がれてきている日本文化の方向性は決定づけられました。

日本人は、何でも受け入れ、何でも吸収できるという特性があり、そのことは素晴らしいことです。しかし、芯こゝろのない辣非らつひでは困りますので、精神の核には、やはり、聖徳太子が願われた、仏心（慈悲）を据たもてるべきでしょう。

回 向 えう

原語はサンスクリット語で、パーナーマナーという、「回」はめべらすこと、「向」は差し向けることを意味します。何をめべらし、差し向けるかと、自分が行った善行がよい報いをもたらすことになれば、それを、自分だけが受けとるのではなく、他の人々にもよい報いがありますように、功德を他にめべらし、差し向けることとします。

この「回」と「向」を合すると、仏教本来の「因果論」からすると矛盾したところもあります。なぜなら、例えば父親がどこかの難民救済のために多額の寄付をしたとします。それはたしかに善行です。し

住職通信

世の中で一番たのしく立派なこととは
 一生涯を貫く
 仕事をもつ事である



かし、それによつて息子が大学に受かりますようにと祈ったところ、息子本人が努力しないかぎり、何の意味もないでしょう。

そこで、「回向」ということをめべっては、浄土教を中心にさまざまな解釈がなされてきました。しかし、現在、一般に「回向」とは、亡き人のために法事を営み、その功德によつて、死者が死後の世界でより安穩でありますようにと祈ることだと理解されているようです。

ですから、法事では読経の最後に僧侶が必ず「回向文」というものを唱え、亡き人の戒名(法名)を読み上げて、その故人に功德がめ

べつていきますようにと祈念するのです。(ひそなち『仏教辞書』)

雑記

▼表紙



ミモザの花

渥美町在住の葉山幸様より、平成14年4月27日に撮影された「春の白川郷」の写真を送っていただきました。

雪景色の白川郷ももちろんいいですが、春もいいですね。

▼表彰

現住職の在籍が、この4月9日、ちょうど50年になります。この本山で4月25日の御忌会(ごぎまい)の折に、管長(くだん)狛下(わくした)より表彰していただけることになりました。檀信徒各位には、心より感謝申し上げます。

▼野辺地蔵ミモザの花

花と飛行雲 沐魚